

校内研修の概要と授業実践

太田市立駒形小学校

I 研修主題及び副主題

自ら課題を見付け、問題を解決できる児童の育成
～生活科・総合的な学習の時間における地域単元の指導の工夫を通して～

II 研修主題設定の理由

1 児童の実態から

児童の生活科・総合的な学習の時間に対する興味・関心・意欲は、つかむ過程においては概ね高い。しかし、特に総合的な学習の時間では、「ふかめる過程」において、情報収集が文字資料中心の活動になると、積極的に取り組める児童と、活動が停滞してしまう児童とに二分されてしまいがちであった。

この「学習方法に関する資質や能力及び態度」の育成が不十分なため、「自分自身に関する資質や能力及び態度」の育成も不十分であった。設定した課題に向けて学習活動を進めても、それが自分の生活や自己の将来に関連していないからである。

その中で、地域に視点を当てた単元の学習では、「交流が楽しかった」と答える児童もおり、関心の高さが見られる。生活範囲である「地域」に出かけ、問題を発見し、課題を設定し、体験活動を行うなどの学習活動は、他教科ではなかなか味わえないものであり、意欲的な学習態度となっていた。

2 昨年度の地域に視点を当てた研修の振り返りから

(1) 本校と地域の結びつきを拡げる

本校は、「地域の人々の暮らし、伝統的な文化など地域や学校の特色に応じた課題」に視点を当てることにした。本校は以前から田植え・稲刈り・しめ縄づくり・もちつきなど、「米」を通じた地域との結びつきが盛んであった。そして、それを皮切りに、他学年でも従来から取り組んできた地域単元の指導を見直していった。

また、生活科や総合的な学習の時間を中心に学校と交わった地域の方々は、「もちつき大会が楽しみ」「もっといろいろな遊びを教えてあげたい」といった、前向きな思いをもっている。この思いをうまく教育活動に生かすためには、下記(2)のようにより一層の検討が必要であり、事前の入念な打合せも重要になってくる。

(2) 学習対象・学習事項のより一層の検討

特別な「もの」や「こと」などが存在しない地域でも、「ひと」を学習対象として、「生活をよりよくしていく人の営み」を学ぶことができる。学習活動に地域の「ひと」をうまくつなげていくことで、総合的な学習の時間の目標に迫る学習内容となっていくと考える。

III 研修の構想

1 研修のねらい

生活科・総合的な学習の時間において、地域単元の指導を工夫することを通して、自ら課題を見付け、問題を解決できる児童の育成を図る。

2 研修の見通し

生活科・総合的な学習の時間において、児童の身近にある地域に視点を当て、取り組みたい・解決しなければならない問題から課題を設定させ、そこに地域の「ひと」とのかかわりを取り入れるなど、学習活動の流れを工夫することで、自ら課題を見付け、問題を解決できる児童を育成することができるであろう。

3 目指す児童像

自ら課題を見付け、情報収集をして、その内容を整理・分析し、自分の考えを交えながら、相手や目的に応じて表現するなどの一連の活動を協同して行うことで、自分の生活の在り方を見直したり、自己の将来に生かしたり、地域の活動に参加したりして、問題を解決できる児童

4 研修の内容

(1) 基本的な考え方

①生活科・総合的な学習の時間における地域単元の指導の工夫とは…

- ア 地域の「ひと」についての学習活動を取り上げる。
 - ・地域の「ひと」とは…
お年寄り、街の人、障害者など弱い立場の人、畑作・稲作指導の人、遺族会の人など。
 - ・地域の「ひと」と共に…
問題の解決などのために、共にふれあったり、考えたりする学習活動を行う。
 - ・地域の「ひと」から…
問題の解決などのために、地域のひとから指導を受ける学習活動を行う。
 - ・地域の「ひと」に…
問題の解決などのために、地域のひとに向かって情報を発信する学習活動を行う。
- イ 地域の「もの」についての学習活動を取り上げる。
 - ・地域の「もの」とは…
まちの商店、さつまいも、公園、施設、米、戦争遺物など。
 - ・地域の「もの」を…
問題の解決などのために、見学したり、観察したり、ふれたり、調べたりする学習活動を行う。
 - ・地域の「ひと」へ…
問題の解決などのために、見学したり、観察したり、ふれたり、調べたりした「もの」を地域の「ひと」に発信する学習活動。
- ウ 上記ア・イの地域の「ひと」「もの」を生かして取り組む学習により、駒小から発信する情報を地域の「こと」として生み出す。
 - ・駒小の「こと」
「むかしからのあそびをしてみよう（1年）」「みんなで作ろうフェスティバル（2年）」
「地域カルタをつくろう（3年）」「ふれあいの会～お年寄りと仲良く～（4年）」
「みんなに喜ばれるもちつき大会にしよう（5年）」「平和大使になろう（6年）」
 - ・駒小の「こと」から地域の「こと」へ
上記の駒小で行われる「こと」は、地域の「もの」にふれたり、地域の「ひと」から情報を得たり、指導を受けたりしながら、総合的な学習の時間を通して作り上げてきたものである。これらの駒小の「こと」は、ここまで関わっていただいた地域の方々などに参加していただくことで、駒小の「こと」から地域の「こと」になると考える。

(2) 研修の方法

①各学年の地域単元指導計画の見直し

- ア 1年
 - ・「むかしからのあそびをしてみよう」
昔遊びを通して地域のお年寄りと交流し、お年寄りの知恵やあたたかさを

感じることができる。

- ・「むかしからのあそびを学習することのよさ」

・人と関わって遊ぶことへの興味関心が高まる 昔からの遊びの経験 → 教えてもらったり競い合ったりしながら技を磨くことの楽しさを味わう → 人と関わる遊びの楽しさを知る → もっと知りたい係わりたいと考える
・自分の生まれた育った町のよさに気付く 昔からの遊びの楽しさや地域の方の優しさを知る → 地域の方への感謝の気持ちを持つ → 自分の町の良さに気付く
・人との関わり方を体得する 地域や友達と関わって遊ぶ → ルールを守りながら相手に気遣ってもらったり、相手を気遣ったりして遊ぶ → 家族以外の人との関わり方を知る → コミュニケーション能力の向上

イ 2年

- ・「みんなで作ろうフェスティバル」
町たんけんで行った地域の公共施設などに込められている、地域の人々の工夫や思いを知り、ものの見方に活かす。

・地域の「もの」の確認と理解の深まり 地域にある「もの」の調査 → 地域への理解が深まる
・地域の公共施設等についての理解と利用意識の向上 地域にある「もの」の調査と「ひと」を通じた理解の深まり → 「あの建物は〇〇のためのものなんだ」と理解し、「使ってみよう」という意識が芽生える
・地域の一員としての意識の醸成 地域の「ひと」との関わり、「もの」の使用 → 「この地域で自分も生きているんだ」という意識の高まり
・発表の用意をしたり、体験したりするなどの学習活動の定着 調査したことをまとめる → みんなに伝える → 学習方法の定着

ウ 3年

- ・「ちいきカルタを作ろう」
2年生の町たんけんの成果を活かし、駒形地域をさらに見渡し、かるた作成を通して、そこに込められた地域のよさを感じ、より深く地域を理解する。

・地域の特徴的な「こと」「もの」の確認と理解の深まり 町たんけんの成果 → 地域にある「こと」「もの」の情報収集・調査 → 地域への理解の深まり
・地域への愛着と意識の向上 地域にある「こと」「もの」をカルタに表現する → 地域への愛着が芽生える・地域の「こと」「もの」に関する意識が高まる
・地域の一員としての意識の高まり 地域の「ひと」との関わり、「こと」「もの」への理解 → 自分が生活している地域のよさに気付く
・他者との関わり方を体得する。 地域カルタの作成 → 下級生や地域のお年寄りとは作成したカルタで交流する → 社会性が育つ

エ 4年

- ・「お年寄りと仲良く」
日本の高齢化社会の現状を知り、地域に住むお年寄りとはふれあう中で、自分たちにできることを実践していく。

<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化社会の理解 高齢者の割合の増加 → 日本社会の人口減や経済状況の停滞等の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への接し方を考え、高齢者からよさを学ぶ 高齢者への接し方を考える → 高齢者とのふれあい → 高齢者のやさしさや知恵を知る
<ul style="list-style-type: none"> ・今後のよりよい生き方を考える 日本社会の人口減や経済状況の停滞等の理解、高齢者のやさしさや知恵を知る → 自分たちは何ができるのか、どんな工夫が生活の中にできるかを考える
<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなにやさしい街」 福祉の視点から、駒形地域に住む人々の思いを知り、公共施設等の現状を考え、今後のものの見方に活かす。
<ul style="list-style-type: none"> ・生活の仕方を工夫しようとする意識が芽生える 身の回りの道具などの観察 → 「こうすればよりよくなる」という探究心
<ul style="list-style-type: none"> ・他者に対する福祉的な思いの広がり 地域に存在する道具や施設の観察 → 自分だけの生活から他者への意識の広がり
<ul style="list-style-type: none"> ・社会に対する福祉的な思いの広がり 新聞やニュースなどからの情報の収集 → 社会の中へ福祉的な思いを広げる
<ul style="list-style-type: none"> ・道具や施設だけでなく、やさしさという心の芽生え 身の回り、地域、社会をよりよくする道具や施設の存在の理解 → 全てをまかないきれないことを感じる → 相手を思いやるやさしさが重要であることを知る

オ 5年

- ・「みんなに喜ばれるもちつき大会にしよう」
社会科の学習と横断させながら、「米」を通して学校と地域が密接につながっていることを体験を交えながら学ぶ。

<ul style="list-style-type: none"> ・日本社会に対する理解 米作りの歴史の学習 → 社会科との関連 → 日本の伝統文化の理解
<ul style="list-style-type: none"> ・米作りの苦労に対する理解 米作り農家の努力や苦労 → 食物を大切に作る気持ち、農業のありがたさを実感
<ul style="list-style-type: none"> ・食育への関心の高まり 日本人の主食や食生活を考える契機 → 食べ方のアレンジ → 生活に取り込む
<ul style="list-style-type: none"> ・本校と地域との連携 多くの地域人材 → 学習に役立つ 体験的な活動→実感を伴った理解
<ul style="list-style-type: none"> ・食文化の国際理解へと発展 日本の米作り → 世界の食糧生産、世界の食料自体への関心の広がり
<ul style="list-style-type: none"> ・職業への関心の高まり 田植えなどの体験→働くことの喜びや達成感→将来の職業について考える

カ 6年

- ・「平和大使になろう」
社会科の学習と横断させながら、地域の人などから戦争にまつわる話を聞き、生活の大変さや命の尊さなどを学び、平和を守り続けていこうとする態度を身に付ける。

<ul style="list-style-type: none"> ・戦争から復興への理解 戦争体験 → 戦争の悲惨さや平和の大切さを考える 中島飛行機 → 戦後太田市の産業の中核
<ul style="list-style-type: none"> ・物を大切にすること 歴史の正しい理解 → 伝えていく大切さの理解 生命、物、食べ物を大切にする

<p>・平和の大切さを理解</p> <p>悲惨な状況 → 精一杯生きる人々の力強さ、努力することの大切さの理解</p> <p>地域のお年寄りの話 → 幸せな生活の実感</p> <p>平和とは、戦後の復興によりつくられ、守られてきたもの</p>
<p>・現在、未来の日本の在り方を考える</p> <p>太平洋戦争から、現在世界で起きている戦争へと視野を広げる</p> <p>現在、内戦で苦しんでいる人々 → 平和について真剣に考える</p> <p>日本周辺国の脅威 → 今後の日本の進むべき道を考える</p> <p>地域の方に戦争に関する話 → 自分たちはどうすればよいか考える</p>

②「生活科の学び方」の教師側の再確認

【ふれる・つかむ過程】

- ア 自分たちの生活を豊かにしているものや人、今後学ぶことで豊かにしてくれるものや人のよさに気付くことができる活動を取り入れ、「もっと知りたい」「もっとしたい」「もっと上手になりたい」等の意欲を喚起させる。
- イ 「もっと知りたい」等の願いを実現するための単元全体を見通す課題をつかませ、学習全体の見通しをつかませる。

【調べる・追求する過程】

- ウ 人員の構成を工夫しながら班での活動を中心に据え、課題に沿った活動計画を立案実践するようにする。
- エ 班の中、学級全体、学年全体での交流を意図的に設定し、自分たちの思いや考え、気付いたことを伝え合うことで新たな気づきが生まれたり、地域の方々の思いや考えに気付いたりできるようにする。

【まとめる・広げる過程】

- オ 自分たちの願いを基にした課題が達成できたを振り返る表現活動を工夫し、まとめとしての新たな気づきを生み出し、これからの自分たちの生活や今後の学習活動につなげていけるようにする。

③地域の方々とのかかわりの見直し

- ア 地域の「ひと」とのかかわりを取り入れた学習活動の流れの工夫
 - 児童が課題を見付け、問題の解決や手順を考える際に、「地域の人とのかかわり」を考えられるよう、学習活動の流れを工夫する。
- イ 地域人材・題材バンクの作成
 - 従来、本校の生活科・及び総合的な学習の時間において、学習の協力をいただいていた地域の方々や題材等を洗い直したり、一覧表にまとめ直したりした。

V 研修全体構想図

